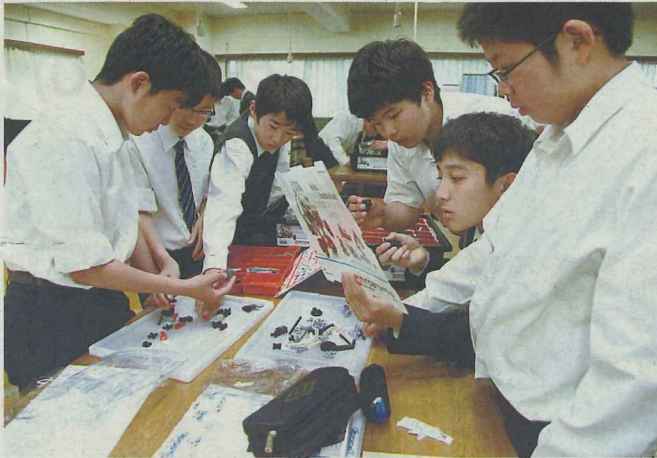


ロボコン挑戦 本格始動

松本秀峰有志課外授業で

松本秀峰中等教育学 外のロボットコンテスト
校は本年度から、国内 ト(ロボコン)大会へ



ロボット製作キットの部品を確認する生徒たち

の挑戦を通じて、生徒有志がプログラミングやロボット製作を学ぶ課外授業「ロボコンプロジェクト」を本格始動させた。今後ますます重要性が高まるコンピュータやロボット工学などの理工系分野に興味や憧れを抱く生徒たちが、主体的・実践的に学ぶ場を設けることで、さまざまな進路選択を考えるきっかけにしたい考えだ。

同校の教育プログラムの一環で、自主活動や部活動などを行う7時間目を活用して週最大3時間取り組む。本年度導入したブロック玩具を使う自律型ロボット製作キットを用い、3人一組のチームで動作に必要なプログラミングを学びながらロボットを製作・制御する。8月から予選が始まる国際的なロボコン大会への出場が当面の目標だ。

かつて大手ゲームメーカーのゲームクリエイターだった瀬川伸教諭(39)は「失敗しつつ何度でも挑戦する『トライ&エラー』を社会に出る前から経験できるのも大事なことです。時間をかけて過程を楽しみ学んでほしい」と願う。

1〜5年生の有志45人が開封前のキット計15セットを受け取り、部品整理などをした。1年・ルイス輝南君(12)＝岡谷市＝は「やるからには仲間と協力して積極的に取り組みたい」と目を輝かせ、プロジェクトリーダーの4年・小松大祐君(16)＝松本市梓川＝は「好きなことを学べうれしい。授業が学校の新たな伝統にもなれば」と願った。

(小岩井貴之)

授業初日の18日は、